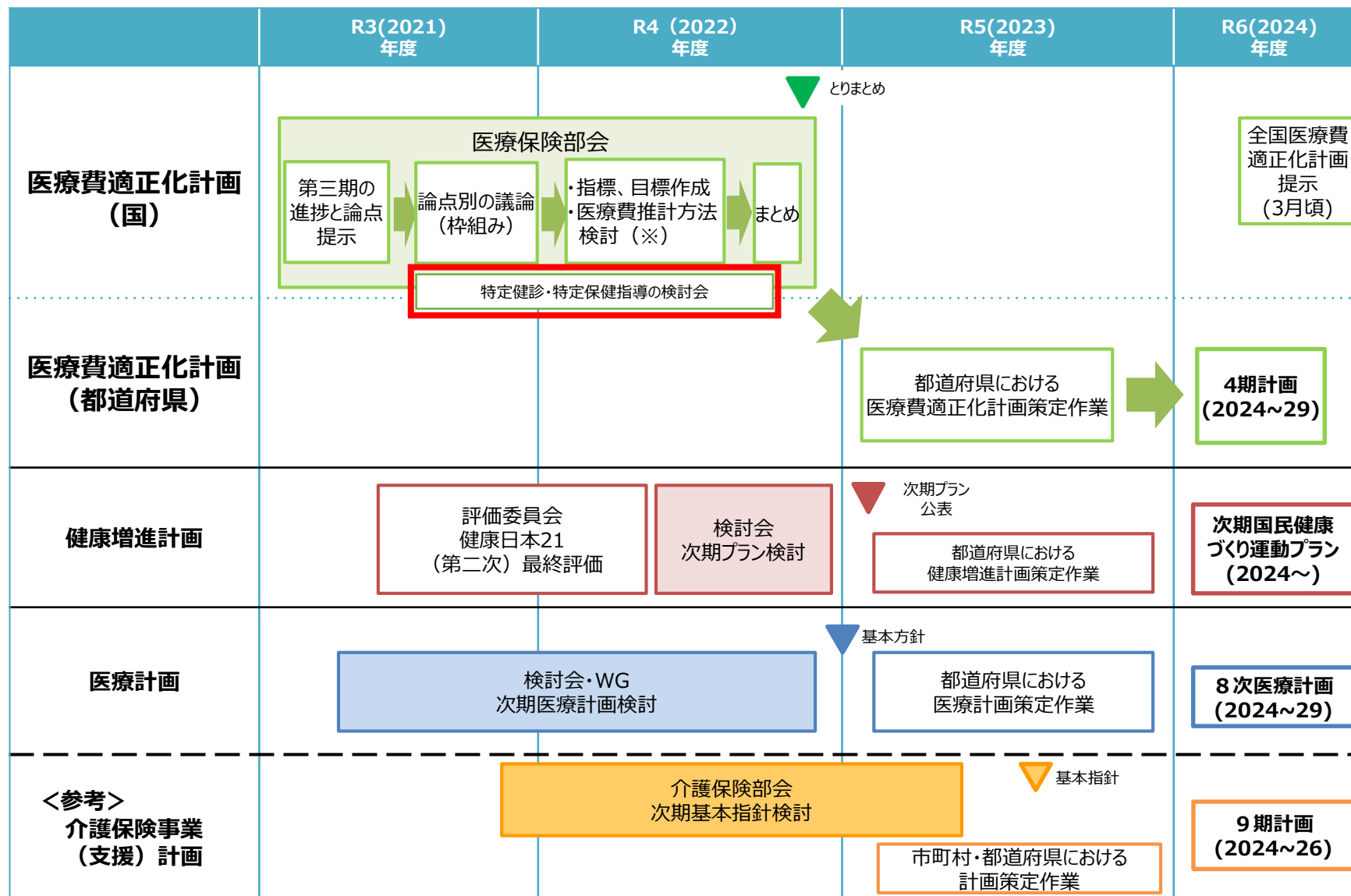


次期計画に向けたスケジュール（案）

令和3年11月16日
第40回社会保障ワーキング・グループ
資料を一部改変



※ 必要に応じ、指標や目標の詳細、医療費推計方法については、別途検討会を開催し、議論。また、次期国民健康づくり運動プランや第8次医療計画の議論を踏まえて検討
 ※ 特定健診・特定保健指導については、別途検討
 ※ 介護保険事業(支援)計画のスケジュールは、第8期に向けた検討スケジュールをもとに作成。

1. 特定健診

エビデンス構築の進捗状況

- ・大規模実証事業（特定健診・保健指導）において、諸外国における予防・健康づくりに係るエビデンスレビュー（文献検索）を実施。
 - USPSTF（米国予防医学専門委員会）による文献検索の結果、高血圧・糖尿病・脂質異常症・肥満に対するスクリーニング検査・生活指導介入が高く推奨されていることを確認。
- ・大規模実証事業（特定健診・保健指導）において、NDBデータを用いて特定保健指導が健診結果に与える影響を、回帰不連続デザインを用いて推定。
 - 体重・HbA1cについては統計学的に有意な減少が認められたが、収縮期血圧・LDLコレステロールについては改善傾向を示しているものの、有意差が認められなかった。
 - 効果的に特定保健指導を実施するための実施方法等の見直しの必要性が指摘された。
- ・特定保健指導について、第三期（2018年～）より「介入成果に着目したアウトカム指標（腹囲2 cm以上、体重2 kg以上の改善）に基づいた「モデル実施による積極的支援」を新たに導入。

今後の予定

- ・特定健診・保健指導について、大規模実証事業において、医療費適正化及び健康増進双方の観点から検証を行っており、事業効果及び事業目的について明確化を図る。
 - 特定保健指導の実施率が高い保険者等の保健指導内容を、アンケートやヒアリングを通じて実証フィールドで収集し、特定健診・保健指導の効果的な実施方法を検証
 - 特定保健指導について、従来の指導方法による効果と、アウトカム指標を導入したモデル実施による効果等を、NDB等のデータを用いて定量的に比較することを検討中。
 - 受診者の行動変容につながり、成果が出たことを評価する方向（アウトカム評価の導入、保健指導内容の見える化など） **(11月に検討会を立ち上げ予定)**
- ・その上で、特定健診・保健指導のあり方の見直しを検討する。